善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

「悲」の中で「誠」に遇い
「慶（よろこ）ばしいかな」と転換される道あり

五月晴れに鯉のぼりが泳ぐ季節です。五月は親鸞さまのお生まれになった月。五月二十、二十一日ご本山ではにぎやかに宗祖降誕会が勤まります。私どものお寺は、五十年に一度の七百五十回大遠忌法要を来る十五日にお勤めさせて頂きます。

親鸞さまのご一生に学ぶとき、人生には３つの誕生があると味わうことができます。「誕生は一度だけだろう」と不思議に思う人が多いですが、私たちが人生を生きる意味を親鸞さまから学びたいと思うのです。

第一は勿論、母親のお腹からこの世に生まれた誕生です。親鸞聖人は、承安三年（１１７３）日野有範の長男としてご誕生になりました。しかし、まもなく母親が亡くなり、父・有範も政治的な理由などから隠棲し、後に生まれた兄弟ともども叔父の家に身を寄せることになりました。無常観を抱き、叔父の家からの自立を志して弱冠九歳にして出家得度。しかし、比叡山での学問、修行は若き親鸞さまの心の闇を晴らすものではありませんでした。

聖徳太子の夢の示現により、山を下りて法然房源空聖人の門に入り、二九歳の頃、本願念仏の道に帰入されました。それが第二の誕生です。底知れぬ煩悩具足の身を「悲しきかな」と慚愧しつつ、「誠なるかな」と本願念仏の道に帰依し、「慶ばしいかな」と乗り越えて往く出発点に立たれました。

三十五歳の春、念仏弾圧事件（承元の法難）に連座された時、理不尽な裁きに激しい怒りを表しつつも、越後に流罪という逆境をバネにして、「僧にあらず、俗にあらず」という新たな境地を見出されました。越後で四年間の流人生活を終えた後、ご家族と共に関東に移住し、庶民大衆の間にお念仏の教えを伝えつつ、「教行信証」の著述に励まれました。

晩年京都に戻って「教行信証」を完成、更に五百首にも上るご和讃をはじめ多くの著作に励まれました。善鸞義絶など、様々な苦悩を乗り越えて当時の平均寿命の倍以上というご一生を完全燃焼して、往生浄土の道を歩まれました。この世の命を終えることが絶望ではなく、めでたくも「如来と等しきいのち」に生まれ変わるということ、即ち「第三の誕生」になるのです。

人の世に命を頂いた「第一の誕生」だけならば娑婆の荒波にもまれて空しく終わるだけです。「第二の誕生」により「悲しきかな」の人生が「誠なるかな」の人生に大転換されて、「慶ばしいかな」という「第三の誕生」が約束され、永遠のいのちの一員に成る人生に転じられるのです。親鸞さま九十年のご生涯は我々凡夫が等しく「永遠のいのち」に完成され往く人生のお手本とさせて頂きたいものです。

親鸞聖人７５０回大遠忌法要

５月１５日（日）午後１時より４時半

（稚児衣装引き換え：午前８時半より１１時半小杉公会所）

１２時４５分　稚児宿勤行（館十三生様宅）稚児集合

１時１５分　稚児練り開始

本堂：『法要の集い』仏教讃歌「娘たちよ」「いのち毎日新しい」「親鸞さま」歌・稲葉梨恵様、ピアノ・星合智美様

2時　親鸞聖人大遠忌法要

献華・献灯（２０名）、**『音楽法要』（宗祖讃仰作法）**

１０名の雅楽（高角）とキーボード（山本夏菜様）のコラボ

3時10分　記念講演「生かされて満たされて在る心」

講師；河内美舟先生（山口県、社会福祉法人理事長）

4時10分　恩徳讃、住職御礼言上

５／７（土）午後１時役稚児さん、献華献灯者・楽人他の練習
５／８（日）午後１時　門徒総出の準備作業、掛け出し、掃除
５／１４（土）午後１時役稚児・音楽法要、関係者打ち合わせ、
◇５月２９日（日）午前１０時
『平成２８年度門信徒総会＆ご法要打ち上げ会』（昼食用意）

☆　写真アラカルト　☆

５時の鐘撞きに集う仏の子

キッズサンガでたこ焼き

本堂に向かって合掌礼拝『ちかい』を全員で唱えます

坊守スケッチ　稚児募集の気付き

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要まで、あと一か月と迫りました。寺に嫁いで４２年の私には、三度目の大きなご法要。３年前から内外整備に取り掛かりましたが、これほど緊張感を感じたのは初めて。何故ならば過去２回のご法要は、ご法要の意味すら分からず、周囲のお膳立てに従うだけでした。

しかし今回は様子が違います。お寺の様子も分かり、自分達の代で勤める最後のご法要だと認識しています。いい加減なことをしていたら、ご先祖に申し訳ない、最後の御報謝だという自覚が芽生え始めました。「今できる最善の形で、次の代にバトンタッチをしたい」という思いがこみ上げてきました。

お寺を取り巻く環境は、近年急速に変化し厳しさを増しています。かつての地縁・血縁の絆は崩壊の一途。周囲を見渡せば、少子高齢化で過去の寺の伝統行事の維持すら危うい状態です。そんな中で勤める七五〇回忌。果たして御稚児さんを募集しても集まるかどうか全く不安でした。一年半前からポスターを張り出し、募集を呼びかけても閑古鳥。「役稚児さんだけ集まればいい、後はお坊さんの行列かも？」と投げやりな気持ちにもなりました。

しかしカウントダウンが始り近づくにつれて、次第に手ごたえを感じ始めました。手応えの要因は、口コミ、ネット効果、寺報、新聞チラシ、ポスター等です。特に子育て中の若いママさん達のネットの口コミの効果は甚大です。親のいう事には耳を傾けないが、友達の誘いには「何か面白そう。一緒に参加してみない」という世代です。

今までお寺とは全くご縁のなかった世代の人々に、御稚児さんの意味や、仏縁デビューが子供にどんなよい思い出を残してくれるのかを、丁寧に説明する機会になりました。今の時代に沿った新しい仏縁の結び方の手法を、寺側もどんどん取り入れていくことが大事だと気付きました。

◇『ご法要講師・河内美舟先生紹介』
山口県美祢市明蓮寺前坊守で、社会福祉法人理事長。高齢者、障害者、難民、里子など常に弱者に寄り添い行動する坊守さん。過疎地に２３年前から２８もの福祉施設を次々に建設し、一大福祉村を築かれました。「日本のマザーテレサ」と呼ぶに相応しい方です。数多くの賞も受賞されて著書も多数。

◇手作りの『ご法要の栞』３００部を門徒さん達が協力して作成。急遽稚児用にも２００部を追加作成しました。

◇御稚児さん募集が３月末現在で２００名を超えました。皆様のご協力のおかげです。有難うございます。最終受け付けは４月末頃までＯＫです。役稚児さんも１６名決定しました。

☆若院夫婦の『育自な毎日』その１９

長男（４）に負けず劣らず、長女（１）はとても活発な子です。誕生日を迎える頃から歩きだし、転んでぶつけやしないかとハラハラです。ソファーにもよじ登り、誰に教えられたわけでもなくベッドからは向きを変えてお尻から上手に下ります。最近は玄関の土間に下りて、靴を出したり並べたり。なるべく「汚いから止めなさい」とは言わずに、ある程度は見守ります。

口も長男に負けず達者です。もちろん、まだ言葉にはなりませんが、声の大きさは長男以上です。長男は甲高くてよく通る声なのに対し、長女は低くて太い声。長男と真反対の声色で両親の気を引こうという作戦かもしれません。そして女の子なのでおませなところもあります。靴下や服を自分で着脱しようとします。長男は同時期にこんなことは無理でした。また長男が近付いてテレビを見ていると、「ばっ、ばっ！」と言いながら後ろに押します。これは私の「バック、バック！」という注意の真似で笑ってしまいました。

二人目の子は親が気付かない内に成長してしまい、慌ただしく過ぎていきます。この「育自な毎日」が、一つの成長記録になるようです。（若坊守記）

ホットニュース

◇献華・献灯者の参加者、次の方々にご協力頂きます。（敬称略・順序不同）
堀野栄子、大橋久美子、伊藤美栄子、川崎弘美、服部邦子、高橋智恵子、森よしみ、落合薫、舘正子、伊崎みつ子、舘澄代、服部久代、服部淳子、服部絵理、佐藤きみよ、服部せつ子、山下真知子、舘ひろ子、服部やす子、服部典子、以上２０名（他所８、在所１２）
衣装は白ブラウス、黒ロングスカート。

◇稚児行列が入堂するまでの時間、仏教讃歌を歌います。リード役は稲葉梨恵さん（三重オペラ協会）と星合智美さん（ピアノ）。４／１０打ち合わせ。
◇音楽法要のキーボードを山本夏菜さん（山本守氏孫）４／９打ち合わせ。司会を飯島実優さん（白井孝義氏の孫）にお願いしました。二人とも大学生。

『ご法要までのタイムスケジュール』
※５／７（土）午後役稚児と他の練習
※５／８（日）午後法要準備門徒全員
※５／１４（土）午後、役稚児他練習
５／１５（日）『親鸞聖人七五〇回大遠忌法要』午後一時稚児行列、音楽法要、講演（河内美舟先生・山口県）

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二六九号をお届けします。◇親鸞聖人七五〇回大遠忌法要。親鸞様の教えに遇って苦悩を乗り越えた人は国の内外を問わず数多い。◇「世の中安穏なれ、仏法広まれ」の願いを共にする法縁、どうぞお参りを。

あと一ケ月を切った親鸞聖人七五〇回大遠忌法要。残された日々は、その準備と打ち合わせ、予行練習等忙しい日が続きます。この一ケ月間はご門徒様方に度々ご参集頂き、ご協力が不可欠です。準備の奉仕作業や役割分担などよろしくお願いします。前回の蓮如さんのご法要から早十五年が経ちました。私も含め皆同様に歳を重ね、心身共に動きが鈍くなりました。しかし最後のご報謝だと思って精一杯勤めましょう。一番の気がかりは当日の天候。どうかいいお天気になりますようにと願っています。伊勢志摩サミットならばテロの心配がありますが、ご法要はその点は安心。可愛いお稚児さん達の行列が賑やかに無事勤まることを願うばかりです。当初案じていた稚児募集もおかげ様で二百名以上に達しました。今回若い世代の口コミ、ネットの底力を感じました。寺に嫁いで五年の若嫁も近隣の新しく引越して来たママ友に呼びかけてくれました。新しい土地で不安を感じながら子供を育てるママ友達。「お寺で心安らぐ温かい場所ね」という感想を持ち、快く参加してくれました。若い世代は現在住む地域が、自分達の新しい地元。そこで新しい仲間作りを求めているのだと感じました。今回のお稚児さんや初参式もその接点。お寺も旧住民と新住民の交流する機会を提供し、新しい仏縁を結ぶ事が大事と気付きました。八百年の時空を超えて親鸞様がお出ましになり、「親鸞さまありがとう」と申さずにはおれません。

合掌

平成二十八年五月　善正寺坊守拝